

Q

許すな、
介護保険制度改悪

松村 和子 議員



A

適正なサービス体制の
充実を図る

質問一 要支援者への介護給付費が市町村の事業になった場合の対応について。

二 特別養護老人ホームの入所制限を行う場合の対応について。

三 デイサービスの再編、縮小化の動きと対応について。

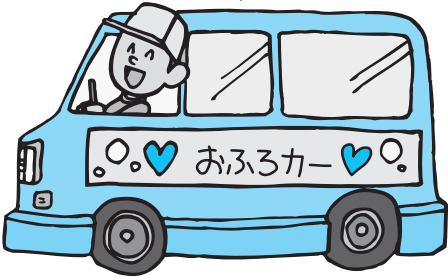
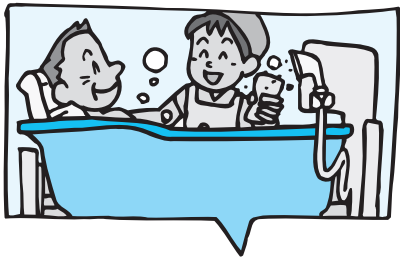
答弁一 (市長)

要支援者へのサービスである予防給付のうち、訪問介護と通所介護については、市

町村が地域の実情に応じ、多様な主体によるサービスが行えるようにする。

二 特別養護老人ホームの入所要件は要介護1以上となっているが、

重度の要介護状態でも、施設に空きがなく、多数の入所待機者がいる。そのため、要介護3以上を入所要件とする見直し案が示されているが、認知症等により、常時見



Q

プレーパークの持つ可能性

大野 洋子 議員



A

生きる力の育成につながる

守りと介護が必要など、やむを得ない事情がある場合は、入所を可能とする特例を設ける予定である。
三 小規模の通所介護は、少人数で生活圏域に密着したサービスであることから地域との連携等を確保するため、市民だけが利用できる地域密着型サービスに位置付ける予定であり、可能な限り住み慣れた地域で生活が継続できるようにサービス提供体制の充実を図る。
◎その他の質問 仕事多すぎ、教職員の過半数過労死ライン

市民の森等でのプレーパークは、子どもたちの自由な遊びの世界を住民たちで取り戻そうとする運動だが、今後の展開について伺う。
質問一 室内遊びと戸外遊びの時間について。
二 子どもたちの人間形成力を高めるための施策は。
三 地域の子育て事業としての視点について。
四 鶴ヶ島市と住民の協働の方向性について。

答弁一 (教育委員長)

調査データはないが、自然環境の減少、携帯型ゲーム機の普及など環境変化もあり、以前より外で遊ぶ時間は少なくなってきたと思われる。



二 学校教育ではボランティアなどの体験活動やキャンプなどの自然体験学習、社会教育分野では子どもフェスティバルや夏休み子ども体験教室など、子どもの人間形成力を養う事業、施策を進める。
三 (市長) 屋外での自由な遊びを通じ、子どもたちの自主性、社会性やコミュニケーション能力など、生きる力の育成につながる。
四 市民がつながりあそび場づくり連絡会を組織した。市は、鶴ヶ島の子育て環境の向上を目指して支援する。
◎その他の質問 子ども・子育て支援体制について